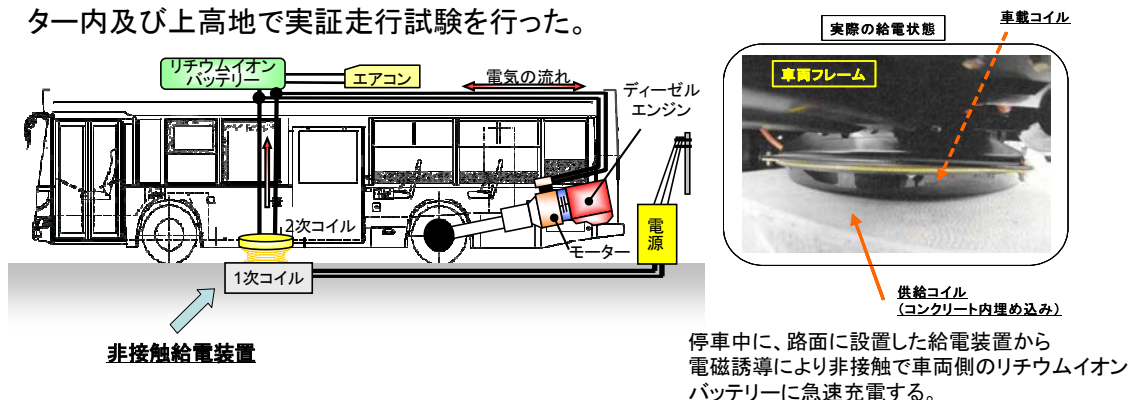


非接触給電ハイブリッドバスの概要

- ・ 非接触給電ハイブリッド自動車は、国土交通省が平成14年度から実施している「次世代低公害車開発・実用化促進プロジェクト」において産官学連携で開発・実用化を進めているものである。
- ・ 非接触給電ハイブリッドシステムは、路面等に埋め込んだ給電装置から電磁誘導により、非接触(充電用のコード等を用いない)で車両側のバッテリーに急速に大量充電するものである。
- ・ 外部から充電することにより、通常は電気で走行し、走行中の排出ガス・CO2をゼロとすることができる。
- ・ 平成20年には、羽田空港のターミナル間、北海道洞爺湖サミットの国際メディアセンター内及び上高地で実証走行試験を行った。



【非接触給電ハイブリッドバスの車両諸元】

項目	諸元値
長さ×幅×高さ	10.925m×2.49m×3.285m
車両総重量	15.6トン
定員	63名
バッテリー性能	電気のみで走行した場合、市街地で約15km走行可能



非接触給電ハイブリッドバス外観(イメージ図)